



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 199号 2010.11.19 発行 社会政策研究所

利用者の意思を支援に反映させる支援を考えるための2つのニュースをお届けします。
【kobi】

言葉なき叫び 届いた 「意思伝達装置 販売続けて」

朝日新聞 2010年11月18日

上：全国から届いた署名と手紙の一部 = 池原恵子さん提供

下：レッツ・チャット利用者の池原久豊さん。ひらがなの50音が並ぶディスプレイから文字を選び、文章をつづる = 池原恵子さん提供



重い病気や障害などで言葉を話せない人たちが言いたいことを伝える「意思伝達装置」のメーカーが今年解散し、危機感を募らせた利用者の親たちが、装置の存続を求めて10万人分にのぼる署名を集めた。事業を引き継いだ別の会社が新製品を発売すると決定し、利用者らはひと安心する一方、「代替がきかない必需品」として、故障対応など従来通りの支援体制を望んでいる。

装置の名は「レッツ・チャット」。頭や指など身体の動く部分でスイッチを操作し、文章をつづれる。同種の装置はほかにもあるが、操作が簡単なことから、脳性マヒなどの障害者や、筋肉の力が衰える筋萎縮（いしゅく）性側索硬化症（ALS）などの難病患者らが利用し、これ

までに約2千台が出荷された。1台12万円で、購入にあたっては国などから給付金を受けられる。

だが、製造元でパナソニックの社内ベンチャー企業「ファンコム」（大阪府守口市）が、ホームページで6月に解散すると発表。販売は在庫品限りで紹介された。

「レッツ・チャットは使用者にとって希望の光。なくなるのは困る」と立ち上がったのが、奈良市の主婦池原恵子さん（58）だった。脳性マヒの息子、久豊さん（25）はレッツ・チャットを駆使して家族やヘルパーと「会話」していたが、今の装置が故障したら二度と使えなくなる、と落胆してしまった。

池原さんは発売継続や故障対応を含むきめ細かい支援体制の確保を求め、8月末から障害がある家族を持つ仲間に口コミで署名を依頼。インターネットを通じて全国から賛同者が増え、署名は約1カ月で10万1244人に達した。

池原さんは9月末、パナソニック（本社・大阪府門真市）社長あてに署名を送付。その

2日前、子会社「パナソニックヘルスケア」(愛媛県東温市)が新製品を来春発売すると発表した。同社は「署名集めは知っていたし、レッツ・チャットを大事に考える利用者がいることも把握しており、安心してもらうため、早めに後継機種発売をお知らせした。支援体制についても検討する」としている。

池原さんは「1人の主婦が始めた署名だったが、たくさんの方が支えてくれた」と感謝しながらも、「販売継続と支援体制、どちらが欠けても利用者にとっては深刻。署名された方の思いが届くよう願っています」と話している。(角谷陽子)

中間とりまとめに向けた骨子案を提示—厚労省検討チーム

キャリアブレイン 2010年11月18日

厚生労働省は11月18日、「新たな地域精神保健医療体制の構築に向けた検討チーム」に、中間とりまとめの骨子案を発表した。早期の認知症における正確な鑑別診断や、退院支援・地域連携クリティカルパスの開発・導入などを提言する内容。検討チームでは、骨子案をたたき台に、次の会合で中間とりまとめを行う。

骨子案では、精神科医療の認知症に対する基本的な考え方として、認知症の人への支援では本人の思いを重視。また、残された能力を最大限生かした支援をする。認知症の早期から専門医による正確な鑑別診断が受診できる体制を整備する。入院を前提と考えるのではなく、地域での生活を支えるための精神科医療とする。BPSD(認知症の周辺症状)や身体合併症で入院が必要な場合は、できる限り短期での退院を目指す。認知症患者を地域で受け入れるためのシステム作りの推進。退院支援・地域連携クリティカルパスを開発・導入する。地域の中で、精神科医療の観点から後方支援的な機能を果たす—などが盛り込まれた。



新たな地域精神保健医療体制の構築に向けた検討チームの第12回会合(11月18日、厚生労働省内)

中間とりまとめでは、この基本的な考え方に基づき、認知症患者に対する精神科医療の役割や、精神科に入院している認知症患者への対応、認知症患者が地域で生活するための取り組みなどについて、具体的な方向性が示される見通しだ。

■「患者本人の思いを重視」に賛否

構成員による議論では、「基本的な考え方」に盛り込まれた「本人の思いを重視する」との文言の取扱いをめぐり意見が分かれた。河崎建人・日本精神科病院協会副会長は「極めて大切なことだが、具体的な提案では、どのような内容を落としこんでいくのか。(認知症患者の意思を支援に反映させるのは)とても難しい」と指摘した。

淵野勝弘・淵野会緑が丘保養園院長も「非常に基本的なことなので、冒頭に書くかどうか、もう一度考える必要がある」と述べた。

一方、野村忠良・東京都精神障害者家族会連合会会長は、「人が人をケアする際、(その文言の精神がなかったら)おかしな方向に行きかねない。冒頭に置いた方がいい」とした。

たまには太陽の子・手をつなく、たまにはつなくちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなく育成会 社会政策研究所発行